

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年5月4日(火)

### 《イエス様がくださる平和》

今日の福音(ヨハネ 14・27 31a)のイエス様のみ言葉には、本当に大切な説明が入っています。軽く聞いたのでは理解できないくらい、深い意味の平和についての説明です。

さあ、皆様、平和とは何だと思えますか。簡単に言いますと、平和は『外面的な平和』と『内面的な平和』の二つに分けられます。

私たちは、環境からいろいろな影響を受けます。平和なシステムや平和な環境を作れなければ、肉体的にもつらい状況に陥ります。ですから、精神的な環境、経済的な環境、自然的な環境、それらの環境の中に平和な環境を作ろうと努力することが必要です。それが『外面的な平和』です。

では、『内面的な平和』とは何でしょうか。イエス様が今日、「平和をあなたがたに残す」とおっしゃいましたね。「残す」の意味は何でしょうか。「自分が保っていた物を残す」という意味ですよ。イエス様がこの世に来られて33年間、ご自分の人生の中に持っていた平和というものがあつたわけです。しかし外から見たら、イエス様は絶対に平和な人生を送られた方ではありませんでした。しかし、自分の中にある平和を残して行く、とおっしゃったのです。そこに答えがあります。イエス様はそのように話された後、何とおっしゃいましたか。「心を騒がせるな。おびえるな。」とおっしゃいましたね。なぜ心が騒ぐのでしょうか。私たちの心は、100パーセント安定していない状態、落ち着いていない状態では、騒がしくなります。そして「おびえるな。」というのは、「恐れるものがある」ということですよ。ですから、イエス様が私たちにくださろうとした平和は、『不安や恐れからの解放』です。それが平和です。

外面的な環境がしっかり作られているいくつかの国のことを考えてみましょう。一番自殺率が高い国は、どこだと思えますか。それはスイスです。スイス、スウェーデンは、いつも自殺率の高い国です。そしてまた、経済的にも政治的にも、安定した国でもあります。もし仕事を失っても、国からお金が支給されます。食べることを心配する必要はありません。そのように落ち着いたシステムの国なのですが、“自殺率は一番高い”と言われていています。これは、外面的な環境作りはもちろん必要ですが、それ以上に内面の環境が大事だということを表していると思えます。

殉教者のことを思い出してみましょう。どこの国でも殉教者を殺した人々の証言は同じです。迫害する人々の目から見ても、殉教者たちは、死刑の前なのに、不思議な平和な顔をしていました。「天を仰いで何かをつぶやき、その顔は輝いていた。」というのが、どの国でもほとんど同じ証言です。つまり、“どんなに恐れることがあつても、その恐れから解放されれば、イエス様がおっしゃった平和が自分のものになる”ということではないでしょうか。

私たちがいくら頑張っても、この世には必ず不安に陥ることがたくさんあります。恐れなければな

らないことが、たくさん起こります。その中で私たちは、どうすれば平和を保つことができるのでしょうか。その平和をイエス様はくださるのです。

皆様、私たちは、“物を手に入れられれば平和になる”と思っているかもしれませんが、それは100パーセント錯覚です。昔の人々のほうが、今の人々より平和な心の意味を分かっていたのかもしれませんが、貧しくて、とうもろこしのようなものでも2～3人で分け合って食べた時代、テレビが何台もなくて、近所の子どもたちがテレビのある家に集まり、笑いながら一緒にテレビを見た時代、その時代のほうが今よりもっと平和な時代だったのかもしれませんが。それに比べて、今はどうでしょうか。物のためにすべての関わりを失ってしまっています。物によって人を評価し、物によって歩むべき道さえ見えなくなっています。昔は、日本のどの教会に行っても信仰的に満たされたのだと思います。しかし今はどうでしょうか。私たちは、イエス様のみ言葉のまことの意味を悟らなければならないと思います。表面だけ理解してあれこれ言うのが信仰ではありません。自分勝手な解釈をして、いつも自分に都合よく理解するのも信仰ではありません。イエス様によっていただいた平和な心が自分の中にあるのかどうかを考え、もしなければ求めようとする心が何よりも必要なのです。

皆様、これからどのように豊かな時代になるか分かりませんが、もし物質的に豊かになっても、心はもっと空っぽになってしまうのかもしれませんが。そのような流れがあることをいつも意識してください。そういう意味でイエス様は、「金持ちが天国に入るのは、らくだが針の穴を通るより難しい」とおっしゃいましたね。これは、物に束縛されることから解放されるのが難しい、ということです。皆様、もし今、「お金がない」、「足りないものばかりだ」とおっしゃるのなら、逆に感謝してください。本当に感謝してください。その貧しさによって、皆様が正しさを持つことができているのかもしれませんが。そういう意味で私たちは、平和の正しい意味を考えなければならないと思います。

南米に、「アルゼンチン」と「チリ」という国がありますね。うちの教会にも信者さんが結構いらっしゃいます。そのアルゼンチンとチリは、お互いの国が仲良くするために、国境にイエス像を建てることを決めました。そして両方国から技術のある人が集まり、像を作り始めました。ほとんど完成に近づいたころ、チリから苦情が出ました。そして、同じ信仰による友であり、家族であることを強調するために建てようとしたその像のために、戦争が起こるくらいの状況になりました。その原因は、“イエス像の顔がアルゼンチンに向いていて、チリには背を向けている”ということでした。だからチリの人々が、「これはおかしい」と叫びだしたのです。ついにものすごく深刻な問題となり、両国の政治家たちが話し合いをしました。しかし、すでにできあがっていて、しかも大きくて簡単に動かせないので変更するのも難しく、困っていました。

その騒ぎの中、チリのある新聞記者が、新聞に記事を書きました。「イエス様の愛がチリよりもっと必要な国はアルゼンチンだろう。チリはアルゼンチンより貧しいけれど、信仰的には落ち着いている。だからイエス像がアルゼンチンに顔を向けていることを、心を広くして受け入れるべきではないか。」という記事でした。今は完成しているようですが、具体的にはどのあたりに立っている像が分かりま

せん。ただ、そういうことがあったと聞いています。

平和というのは、この話のようなものではないかと私は思いました。譲る心、角度を変えて正しく見ようとする心によって、貧しさが貧しさでなくなり、平和の道に行ける宝物になるのかもしれませんが。また逆に、自分を高めるものが、結果としては自分を低くしてしまう悪いものになる場合もあります。

ありがとうございました。